

世界に平和を・戦争の基地はいらない

横田基地ミニ情報 2018.10.15 No. 336 東京・羽村平和委員会発行



CV-22Bオスプレイ4機が日本から出て行き 10月13日に戻ってきた



10月9日(火)に、CV-22B オスプレイ 4機がいつせいに離陸し、岩国基地に着陸しました。その日のうちに3機は国外へ(韓国か?)。1機のオスプレイ 13-0067は横田基地に戻ってきましたが11日(木)に岩国へ、そして3機を追うように国外へ。9月13日(土)3時30分頃、4機が横田基地に着陸しました。10月1日にCV オスプレイ5機が正式配備され、本格運用なのでしょうか。

日本の首都・東京に広大な米軍横田基地 世界で唯一の異常

韓国の首都・ソウル市にも米軍基地がありましたが、韓国は米軍基地を南部に移転させました。首都に米軍基地があるのは日本だけ。しかも、米空軍特殊作戦の拠点基地になったのです。

5機のCV-22は、どこからきたのか? ハルバート・フィールド基地とは?

防衛省は、CV-22B オスプレイはフロリダ州のハルバート・フィールド基地から来たといっています。この基地は、空軍特殊作戦コマンド (AFSOC) が所在する基地です。

空軍特殊作戦コマンドは、特殊作戦を実施する部隊で、敵地潜入や対テロ作戦、偵察・観察、戦闘捜索救難のほか、ラジオ・テレビなどを用いた心理戦も行う。必要に応じ世界各地へ展開し、作戦を行う。ビン・ラディンを殺害したのも、特殊作戦部隊です。「CV-22の横田飛行場配備に関する環境レビュー」(2015年2月24日付)は空軍特殊作戦コマンドで作成されました。

横田基地に配備のCV-22の所属は、嘉手納の第353特殊作戦群第1分遣隊です。

CV-22オスプレイが配備されている基地

米：フロリダ州ハルバート・フィールド基地に約10機

米：ニューメキシコ州のキャノン基地に約10機

米：ニューメキシコ州のカールバート基地に約10機

英：ミルデンホール基地(第352特殊作戦群)に約10機

日本：横田基地に現在5機、やがて10機に。

※ CV オスプレイは現在50機が任務可能のようです

米国内では人口密集地はもちろん動物たちにも影響があるからと特殊作戦のための訓練ができない。CV オスプレイは、ハルバート・フィールド基地の南にあるメキシコ湾の海上で訓練をしているという。米国内でできない訓練を米軍は、日本の首都東京を拠点に日本全土で行う。

横田基地もいらない! 沖縄とともに声を上げよう 10・6市民交流集会



陸自朝霞駐屯地で観閲式 MV-22オスプレイ2機が祝賀飛行 (No.336裏面)



10月14日(日)、陸自朝霞駐屯地(練馬区、他)で観閲式が行われました。普天間基地のMV-22オスプレイ2機(EP-09、EP-10)が、祝賀飛行を行ったあと、横田基地に12時13分着陸、13時15分に離陸しました。

空自三沢基地のF-35Aも観閲式で飛行しました。

安倍首相 観閲式で改憲発言、朝霞駐屯地に陸上総隊が今年6月発足



14日の観閲式で安倍晋三首相は、憲法9条への自衛隊明記を念頭に、「いまや国民の9割が敬意を持って自衛隊を認めている。政治がその役割をしっかりと果たさなくてはならない。私はその責任をしっかりととはたしていく決意だ。」と9条改憲への執念を示しました。横田基地には航空総隊がありますが、今年3月27日、朝霞駐屯地に陸上総隊が発足しました。

「羽田新ルートが“暗礁” 米軍が難色 日本の空なのになぜ」



2020年のオリンピックを控え、日本は羽田飛行場に新ルートを設けたいと考えています。ところが、そのルートが横田空域に引っかかり、米軍は難色を示しているというのです。日本の空なのになぜ？

10月9日の羽鳥慎一モーニングショーでこの問題が取りあげられました。横田空域は大変広い空域で、一番高いところは7000メートル、あと5500メートル、4900メートル、4250メートル、3650メートル、2450メートルと段階的に制限空域があります。



このヒマラヤ山脈のような横田空域は、米軍が管制権を持っていて、米軍機は自由に飛行できるのに、日本の航空機は許可を得なければ飛行できないのです。吉祥寺も、二子玉川、横浜ランドマークタワーも、空は米軍の空。日本に空を取り戻したいね。

マティス国防長官が空軍海軍戦闘機の即応態勢を1年以内に8割にと指示

F-35戦闘機が墜落し、米軍は一時運用停止するというニュースがありました。米軍はF-35に限らず、任務可能な軍用機の割合が低下しています。例えば、F-35Aは2015年は67.90%だったのに2017年は54.67%になりました。F-16Dも2015年は70.70%だったのに、2017年には65.96%です。F-22Aは2015年に67.40%だったのが、2017年には49.01%と、5割を切っています。横田への飛来回数トップのC-17A大型輸送機は83.69%と高い方です。マティス国防長官は、F-35A、F-22、F-16等にたいして、来年の9月末までに任務可能率を80%にするよう、指示しました。一覧表を見ると、多くの機種が任務可能率を低下させています。かなり困難では？

◎ 10月14日に投開票された沖縄県の豊見城市長選は、「オール沖縄」の山川ひとし氏が当選！